計画(会合)名称　　第20回有機デバイス・物性院生研究会

開催日時	西暦2025年10月22日～10月24日
開催場所	東京科学大学すずかけ台キャンパス　大学会館H1棟2階集会室1、大学会館H2棟3階ラウンジ
参加者	74名(内応用物理会員 46名)
実施組織	有機デバイス・物性院生研究会
開催目的	日本全国の有機半導体分野に携わる学生を対象とし研究祭を開催することで学生間の交流や各研究分野の相互理解を深める。
開催内容	定例研究会「有機デバイス・物性院生研究会」において、招聘する有機デバイス研究分野を先導する特別講師によるチュートリアル講演、学生による口頭・ポスター発表を通じて、分子合成からデバイス物理など多岐にわたる先進研究の相互理解を深めるとともに研究者間のネットワーク構築を行い、有機デバイス分野を担う人材育成を行った。

開催結果

日本全国の各大学から計74名(応用物理学会会員46名、全23研究室所属)の学生が参加し、70件以上のポスターおよび口頭発表が行われた。有機半導体という共通分野を軸としながらも、「有機合成化学」「デバイス物理」「光電気物性」など多岐にわたる分野横断的な知見の共有が行われた。各発表における質疑応答では、時間内に収まりきらないほど活発な議論が交わされ、学生同士の意見交換を通じて基礎から応用までを包括的に学ぶことができる貴重な機会となった。

全日程で行われた招聘講演は、有機半導体の基礎理論から最先端技術に至る幅広い内容を学ぶ場となり、招聘講師の豊富な経験と知識に触れることで、研究者としての在り方や研究に対する姿勢を学ぶ貴重な契機となった。これにより、参加学生が自身のキャリアをより具体的にイメージし、将来像を明確化する一助となった。

また、初日に実施された懇親会では、研究内容にとどまらず、研究室の運営や将来の進路に関する話題も交えながら交流が行われ、学生間の信頼関係をより一層深めることができた。こうした関係性を基盤として、今後は研究に関する悩みや専門的な相談を気軽に行える環境が形成され、多分野を包括した新たな研究トピックの創出や分野の活性化につながることが期待される。

本研究会の目的は、「日本全国の有機半導体分野に携わる学生を対象とし、研究祭を開催することで学生間の交流や各研究分野の相互理解を深めること」であるが、今回の活動を通じて、参加者全員がその目的を十分に達成できたと考える。また、異なるバックグラウンドを有する研究者同士が多様な意見交換を行うことで、新たな着想を得る機会が提供され、参加者全員にとって学術的な成長につながったことをここに報告する。